



## No.047 日本の学校はICTが嫌い? GIGAスクール構想成功の鍵



参考 : <https://www.nikkei.com/article/DGXMXZ052905290T01C19A2CC1000/>

昨年12月、一つの新聞記事が教育関係者に衝撃を与えました。

OECDが79カ国・地域の約60万人の15歳の生徒に行った学習到達度調査で、日本の高校生の読解力が8位から15位に転落した、というもの。出題がコンピューター使用型で「日本の高校生はデジタル時代の文章に慣れていない(OECD局長)」と報道されました。

同時に行われたICT活用調査で、デジタル機器がどのくらい教育現場で利用されているかについての回答は、日本はどの項目も他を大きく引き離して最下位。

例えば数学の授業でデジタル機器を使っているのはトップのデンマーク85%、OECD平均38%、日本は8%。コンピューターを使って宿題をするのはOECD22%、日本3%。校内のウェブサイトで連絡事項を確認するのはOECD21%、日本3%。

教育へのICT導入の重要性は早くから叫ばれてきましたが、現場では予算がない、LAN整備に時間がかかる、更新が大変、PCのない教室の授業には使えない、教材ソフトがない…などできない理由がたくさんあって、一般の先生はほとんど自分の授業にデジタル機器を使ってません。

そこで政府はGIGAスクール構想を発表し、今度の補正予算で2000億円以上を投じて、小中高校に一人一台のデバイスと校内LANを整備しようとしています。

もともと公立小中高校の施設整備は自治体の仕事、教室でICTを使うのは先生。やる気があればこれまでできだし、実際やっている学校、先生も少なくないわけですが、今回は格差是正を旗印に全国一律、国が乗り出してくれました。

ただこれから起こりそうで心配なのは、生徒・児童にタブレットは配ったけど誰も使わない、という風景が見えてこないか…問題はデバイスが何人に1台あるかではなく、デバイスが授業で使われるかどうか、自治体、学校、教員がICTを使って教育の中身を進化させる気があるかどうかです。手段が目的化するのはよくあること…



## No.048 日本の学校はICTが嫌い? GIGAスクール構想成功の鍵

これまで日本の小中高校ではスマホの持ち込みは文部科学省の通知で原則禁止でした。見直し中ですが、まだ変わってません。スマホも立派なコンピュータですが「スマホはゲームやチャットに使うもので勉強の邪魔だ。そんなもの授業に要らない。」というのが多くの保護者と教員の考え方。

このようにデジタル機器を使って授業を進化させようとすれば、従来の発想や授業スタイルを変えなければなりません。

第一に、それが教育現場でできるか。

第二に、現場のやる気のある先生、つまりユーザーの使いやすさを反映させて、政府や自治体が補助金の制度設計(User-centered Design)できるか。

この2つがGIGAスクール構想成功の鍵だと思います。